



波板の張り方

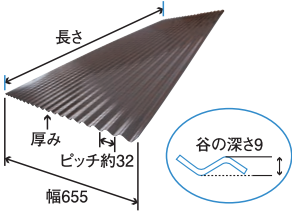
取扱上の注意事項

注意

塩化ビニール系波板については下記の注意事項にご留意ください。

- 直射日光の当たる場所で波板を重ねたままでの保管・仮置きなどは、蓄熱により変形することがありますので、外側を段ボールやブルーシートで覆ってください。
- 寒冷時の切断や穴あけは、特に丁寧に行ってください。
- 雨水がたまり温水化すると、変形・白化する恐れがありますので、保管時は雨水が掛からないようにしてください。
- 多雪地域では母屋間隔をなるべく小さくとり、雪降ろしの際は必ず踏み板を用いてください。
- 特に風の強いところでは先端部を上から押さえ縁で押さえてください。
- 近紫外線領域の一部が透過しませんので、農園芸用途への使用にあたってはメーカーへご相談ください。
- 塩ビ波板・ポリカーボネート波板とも自己消火性を有していますが、燃えますので火に近付けないでください。また、一般家庭では燃やさないでください。

波板の規格



ポリカーボネート波板 裏と表

この面を太陽のあたらない側に使用して下さい

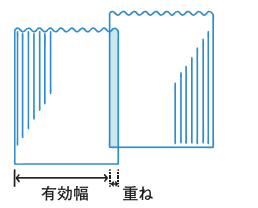
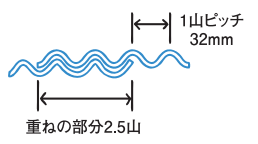
ポリカーボネート波板は各メーカーの表記にしたがって施工してください。

品 質	厚み (mm)	谷深さ (mm)	幅 (mm)	ピッチ (mm)	長さ (尺/mm)
硬質塩ビ波板	0.8	9	655	約32	3/910
純透明波板	0.8				4/1210
ガラスネット波板	0.9				5/1520
ポリカーボネート波板	0.7				6/1820
					7/2120
					8/2420
					9/2730
					10/3030

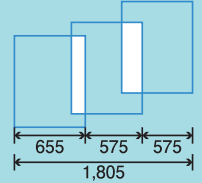
波板の選び方 適材適所でお選びください。

品 質	硬質塩ビ波板	純透明波板	ガラスネット波板	ポリカーボネート波板
テラス	○	○	○	◎
カーポート	○	○	○	◎
雪囲い	○	○	○	◎
サンルーム・ミニ温室				○
物置・倉庫	○			◎
目隠し	○	○	○	◎
参考対候年数	3年	4年	5年	10年

必要枚数の計算方法



例 1間(1,800mm)の場合に必要な枚数は、波板の重ねの部分は2.5山以上ですので
 $655(\text{幅}) - \text{約}80(2.5\text{山分}) = 575(\text{有効幅})\text{mm}$
 ただし、端の1枚は655mmとなりますので
 $1,800 - 655 = 1,145\text{mm}$
 $1,145 \div 575 = 1.99\text{枚}$ で2枚+1枚の3枚が必要です。



止め具の種類

木母屋打込釘使用 <p>座金、波板、バックリン、サドル、母屋</p>	鉄骨フックボルト使用 <p>ナット、座金、波板、バックリン、サドル、アンクル</p>
鉄骨チャンネルボルト使用 <p>ナット、座金、波板、バックリン、サドル、アンクル</p>	パイプボルト使用 <p>ナット、座金、波板、バックリン、パイプ</p>



危険 波板の上には、乗らないでください。施工作业時、破損による転落の原因につながります。



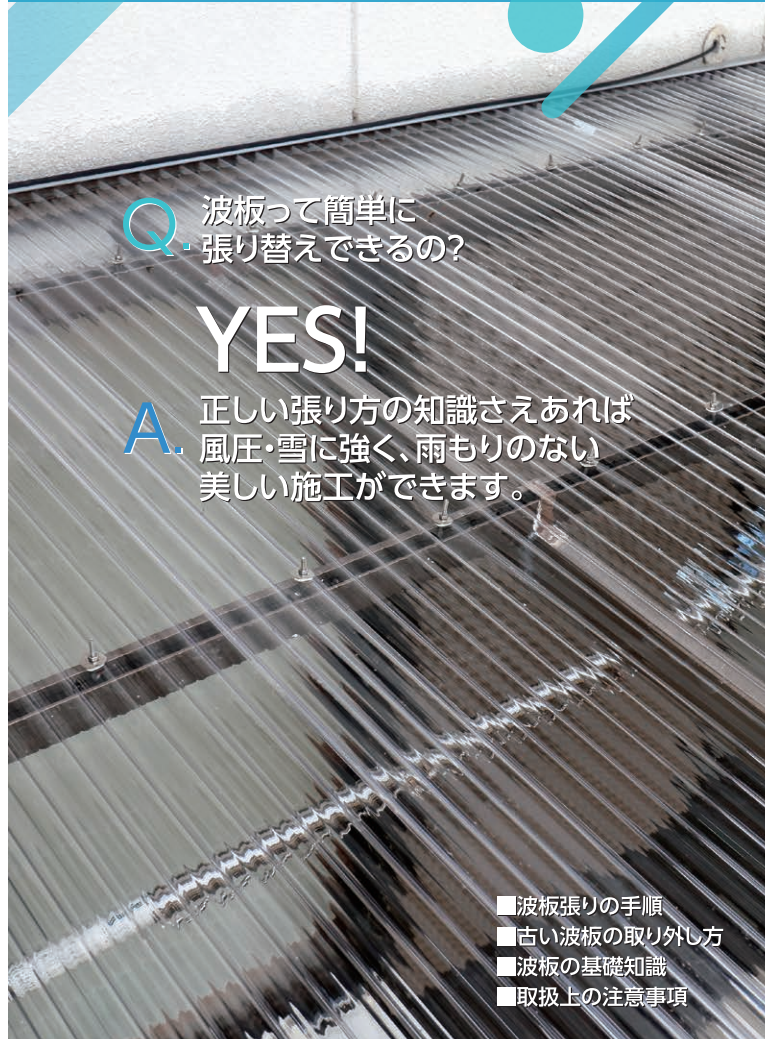
危険 保管時、荷崩れによる事故にご注意ください。立てたままの保管は、すべりやすく荷崩れの原因になります。



危険 工事現場で波板を燃やさないでください。事故の原因となります。



危険 製品をカットした際は、端部で手を切らないようご注意ください。



Q. 波板って簡単に張り替えできるの?

YES!

A. 正しい張り方の知識さえあれば風圧・雪に強く、雨もりのない美しい施工ができます。

- 波板張りの手順
- 古い波板の取り外し方
- 波板の基礎知識
- 取扱上の注意事項

※画像はイメージです。

やってみよう!

準備はできましたか?

修理に便利な道具

【使用するもの】

- ①波板
- ②波板鉋
- ③メジャー
- ④傘釘
- ⑤電動ドリルや錐
- ⑥脚立
- ⑦油性ペン
- ⑧金づち

STEP.1 波板の切断



切断は波板鉋・金のかぎり・ハンドソーなどで正しいやり方で行ってください。

STEP.2 位置決め

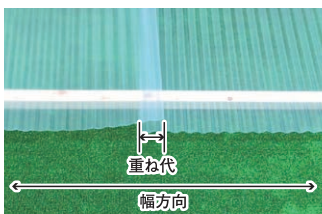


風圧・雪害を防止するため軒先の出幅は一般地域で100mm以下、強風地域で50mm以下にしてください。

流れ方向に継ぐ場合は、雨もりを防ぐため波板は水下(風下)側から葺いてください。

●流れ方向の重ね

勾配	2.5/10	3/10	4/10	5/10
重ね代(mm)	180	150	120	100

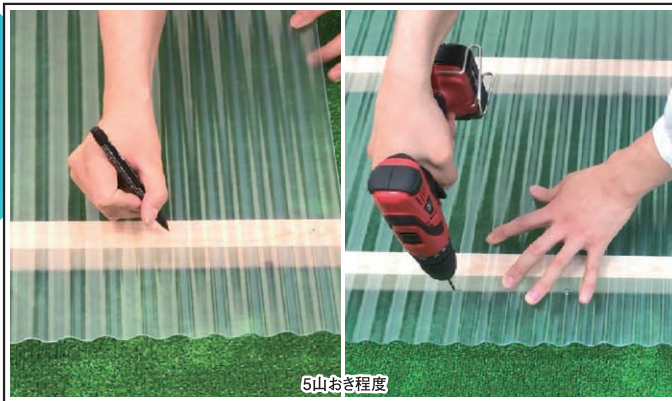


●幅方向の重ね

波型	32波(鉄板小波)
重ね代(山)	2.5山以上
有効幅	約575mm

重なりの下側になる波板の端は山が上向きになるのが原則です。重ね代部分は必ず固定してください。

STEP.3 穴あけ



穴あけは電動ドリル、または錐を使用します。穴の大きさは、取り付けの釘の直径より1~2mm程度大きめに開けてください。(注)穴は、必ず山に開けてください。穴を開ける際は、裏返して谷側から開けると穴が開けやすくなります。

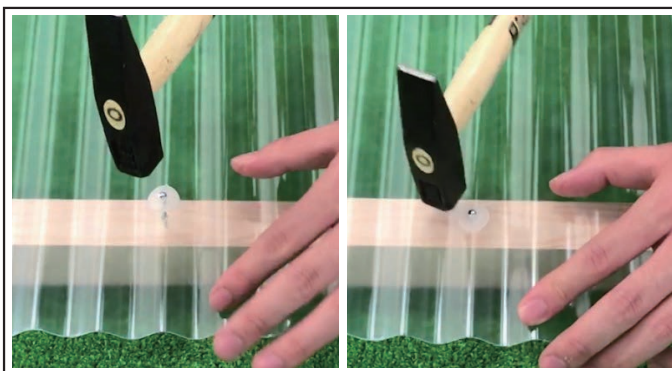
母屋(木材・鉄骨チャンネル・パイプなど)には、直射日光による蓄熱を避けるため、できるだけ白系統の色で塗装してください。

●母屋間隔

地域	受材間隔
一般地域	550mm以下
強風多雪地域	450mm以下

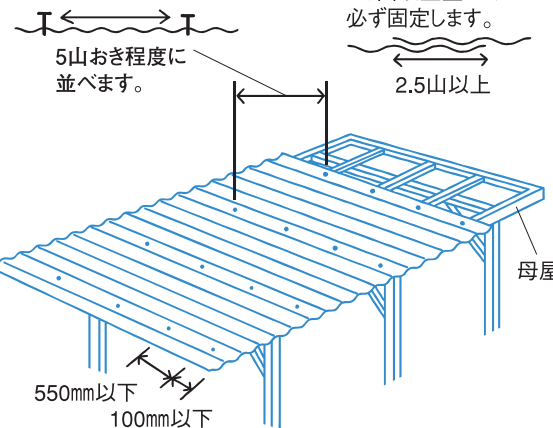
母屋間隔は550mm以下で施工をしてください。

STEP.4 固定の仕方



向きや重なり方に注意し、傘釘をうっていきます。

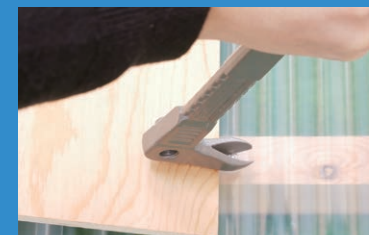
<取り付け図>



波板の重なり部分は、2.5山以上重ねて必ず固定します。

ワンポイントアドバイス

古い波板の取り外し方



傘釘の場合、あて木をしてパールで傘釘を抜きとります。フックボルトの場合、ナットを緩めて抜きとります。

重ね幅

少ない ↑
⑤
④
③
②
①
↓ 多い

波板の傾き

波板の傾きの注意
波板の傾きが緩やかな場合、横からくる雨などの水の浸入と、水もれを防ぐため、重ね幅を多めにとります。

ナンバー	①	②	③	④	⑤
角度と重ね幅					
角度	11°	14°	17°	22°	27°
重ね幅(mm)	200mm以上(約7山)	180mm以上(約6山)	150mm以上(約5山)	120mm以上(約4山)	110mm以上(約4山)